

## 1 事業の成果

2025年度は、理科フリースクールマイムの設立5周年を迎え、これまでの歩みを土台にしながら、さらなる発展に向けた新たな段階へと進む年度となった。これまで継続して取り組んできた「財政的基盤の強化」と「人材の確保」に加え、本年度は「学びの質の深化」と「新たなくうかんづくり」に着手した年度である。

まず、「財政的基盤の強化」では、スクールの安定運営に向けて在籍者数の確保と助成金・寄附の拡充に取り組んだ。理科フリースクールは少人数制を維持しながらも、個々の学びを大切にしながら運営を継続した。また、小学5・6年生を対象とした「マイム科学創楽クラブ」についても継続的に実施し、安定した参加を得ることができた。助成金や寄附については、企業・団体・個人からの継続的な支援をいただき、運営基盤の維持・強化につながっている。

次に、「人材の確保と育成」では、大学生や高専生によるアルバイトスタッフに加え、専門性を持つボランティアの協力を得ながら、マイム独自の学びを支える体制を継続した。特に、機械学習やモデリングなどの分野においては、高専生や大学生との連携により、より高度な学びの機会を提供することができた。また、卒業生がボランティアとして関わる機会も見られ、マイムの循環的なコミュニティの形成が進みつつある。

本年度の新たな取り組みとして、「ZIGZAG 型の学び（デジタルとリアルを往復する学び）」の導入に着手した。本取り組みは2026年3月より開始したばかりであり、現在は試行・構築の段階にある。モデリングやシミュレーションなどのデジタル技術と、実際のものづくりや実験とを往還することで、生徒の理解や探究を深める学びのあり方を模索している。また、設立5周年事業として構想している「第7のくうかん『うごくくうかん』」についても、同じく2026年3月より具体的な検討・試行に着手した段階である。これまでの6つのくうかんに加え、身体を動かす活動を取り入れることで、知的活動と身体活動を往還する新たな学びの場の創出を目指している。地域および教育機関との連携としては、大分大学教育学部のオルタナ探究部との交流会を実施し、大学生とスクール生が互いに学び合う機会を創出した。また、「おおいサイエンスパーク2025」への参加を通して、より広い学びの場へと接続する取り組みを行った。さらに、山口大学より提供いただいた遺伝子組み換え実験を実施し、最先端の科学技術に触れる貴重な機会を生徒に提供することができた。

日常の活動としては、オオツカさんの実験マニア、カジタさんのマイコン講座、フルタさんのゆらぎの時間、ナカヤマさんのモデリング講座など、多様な講座を継続し、生徒一人ひとりの「なぜ？」を大切に学ぶ機会を展開した。また、課外活動として、大学や地域施設との連携、体験活動、ボードゲーム交流などを行い、生徒が社会とつながる機会を提供した。さらに、5周年を機に開催したホームカミングデーでは、卒業生や関係者が再びマイムに集い、それぞれの歩みを共有する機会となった。マイムが「帰ってこられる場所」として機能していることを実感する機会となった。今後は、「ZIGZAG 型の学び」および「うごくくうかん」の具体化を進めるとともに、後継者の育成や外部機関との連携をさらに強化し、持続可能な運営体制の構築を目指していく。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
①既存の学校教育になじまない不登校の子どもや発達障がいの子どもの可能性のある子ども等に対する科学的素養の育成事業	理科フリースクールマイム マイム科学創楽クラブ	(A) 月・火・木・金の10～16時 (B) 理科フリースクールマイム (C) 専任1人、アルバイト1名、ボランティア3人 (A) 隔月1回土曜日の10～15時 (B) 理科フリースクールマイム (C) 専任1人、アルバイト3名、ボランティア1人	(D) 中高生 (E) 8人 (D) 小学校5・6年生 (E) 5人	2,776
②児童福祉法に基づく障害児通所支援事業	なし	・本事業年度は、実施予定なし	-	0
③前各号に掲げるもののほか、当法人の目的を達成するための必要な事業	なし	・本事業年度は、実施予定なし	-	0